

第 5 回作業部会以降にいただいたご意見・ご質問等

中間評価結果への意見

平木 敬

1. 現行計画への意見(4月22日に準拠する)

・詳細設計の結果、現行計画では複合システムとしての性能が十分でなかった。ベクトル部がスカラ部に対して十分な特徴を持つに至らず、連成ジョブにより効果的結果が得られることが示されなかった。

・現行計画では、プロジェクト目標の達成は困難である。

その結果、現行計画の見直し4案が提示された。

2. 理研から提示された変更案への意見

・複合システムで得られる性能、計算科学アプリケーションの実行環境はスカラ部単一システムでもおおむね得られることがわかり、案1から案4のいずれも、計算科学からの要請を満たすと判断した。

・当初の目標の TOP500 No.1 の達成、HPCC Award4項目の一部の達成は、案4では可能性が低い

・案1はスケジュール的に困難であり、努力目標とはするものの、プロジェクトのスケジュールプランにはできない

・案3は、14Pの最大構成の実現には、スケジュール、資金増加額ともに困難があり、スケジュールプランにすることが困難である

・案4は、目標の実現が米国競合システムの失敗待ちであり、可能性が低く、変更の意義が低い。

・案2は、本プロジェクト当初の案であり、現時点でも目標としての有効性は変化が少ない。ただし、経済状況の変化から受注企業への資金負担が問題化する可能性が強い

目標の達成可能性は:

・2011年6月に、TOP500でNo.1は、案2以外では実現不可能。

・HPCC Award 4項目は、G-Randomはあきらめ。あとの3個は目標達成の可能性はある。(FFTがややきびしい)

・10Pflopsは、2011年11月には確実に達成されるが、2011年6月達成には、冒険的要素が強い

・ソフトウェアに関する目標達成は、別途検討するが、使用開始が早期になることは、プラスである

3. 評価結果たたき台:

- ・案2を更に精査し、プロジェクト当初の目標に立ち返って完成させる
- ・2011年11月にシステムを完成させ、2011年度中の実運用開始を実現する

すなわち、案2,4の複合的な実現を目指す。

- ・2012年度はソフトウェアの充実、次のステップへの準備にあてる。
- ・必要な予算は、プロジェクトにおける無駄を精査して排除し、自己調達する。
- ・それでも不足する場合には、増額を要求する。